

+ 2 2 【れんげげ】

外国の作家の小説に、肺の中に蓮の華が咲く病いの娘がでてくる話がありました。

その蓮の華は、肺結核（はいけっかく）の象徴（しょうちょう）なのでしょうが、せつなくはかない物語でした。

ぼくの身近にも、蓮の華が肺の中に咲いた少女がいました。

その少女は小学校の同級生の妹で、蓮の華のせいで小学校にも行けません。

ある日ぼくは、一緒に宿題をやろうと、その同級生の家に行き、（噂では聞いたことがありましたが）初めてその少女を垣間（かいま）見たのでした。

肌の色が透明（とうめい）で、唇だけが桃色の蓮の華の色でした。

そうして、せつなく、はかない横顔をしていました。

とても人間には見えず、というのは、村のこどもたちは（男の子はもちろん女の子も）日焼けと垢と生気で黒褐色（くろかっしょく）の顔をしていたからでしたが、ぼくは少女が妖精（ようせい）にしかおもわれませんでした。

同級生にいわせると、あと半年の命だそうですが、こういう少女は亡くなっても、妖精として村の中を飛び回るのはないか、と想像しました。

こうして毎日、部屋の中に閉じこもって静かにしているよりも、そのほうがずっと幸せなのではないか、とさえ想像したものです。

それでも同級生がしきりに嘆くので、ぼくは懐爺のところへ行きました。

「なんとかならんかのう」

「かわいそうですが何ともなりません。町には特効薬がちょっぴり入ったようですが、村に入るまでには早くともあと十年かかります」

「あのこは、くるしくないのかのう、かなしくないのかのう」

「そんなことはなく、きれいな夢をみるふうですね。胸の奥で蓮の華がらんらんと咲いていますから」

その言葉の「らんらん」で、ぼくには蓮の華が咲き誇る様子が見える気がしました。

これほど咲いては、もうだめだろうともおもわれました。

できれば妖精になってほしいとおもわれました。

「まちのくすりを、かっぱらってこようかのう」

ぼくは本気でいいました。

「本当に餓死（がし）しそうになったら、畑とか収納小屋の野菜をかっぱらって喰ってもいいよ」

そう母親がいていたからでした。

「それをやると町で死ぬ人が増えるだけです。それに盗んだ薬は特効薬にはなりません。【れんげげ】が邪魔（じゃま）をしますからねえ」

「【れんげげ】たあなんじゃい」

「蓮の華のおばけです。正義感の強いおばけですから、盗みなんてものは許しません。病死しそうになっても餓死しそうになっても盗むのはだめです」

「せいぎかんのつよいおばけなんか、ほんまにいるんかのう」

珍しくぼくは懐爺の言葉を疑いました。

「金ちゃんらしくもない。このさい念をおしておきますが、おばけには正義感の強いものも、清貧（せいひん）のものも、優しく思い遣りのあるものも、親孝行のものも、人間好きのものも、いるんですよ」

「それはいいのう」

じつはぼくもそんな気はしていたのですが、懐爺の口から聞いたかったのです。

「【れんげげ】は、清く正しく美しいおばけといわれています。しかし【れんげげ】が眠っているすきに、蓮の華を萎（しぼ）ませる手がないわけではありません」

「それはなんじゃなんじゃ」

ぼくは身を乗りだしました。

「肺の中におもいきり、爆発するくらいに空気を入れることです。【れんげげ】は空気に弱いんです」

「しかしじぶんじゃ、そんなちからはでんじゃろう」

「だから金ちゃんがやってあげるんですね」

ぼくは少女と接吻（せつぷん）することになる自分を想像して、嬉し恥ずかしの気分になりました。

「きはすすまんが、かいじいのめいれいなら、しかたないのう。やったるやったる」

「でも接吻はだめですよ。そんなことをすると【れんげげ】が飛び起きて、こんどは金ちゃんの肺のなかに入ってきますからねえ」

「げげ」

「いまから肺に空気を入れる器具（きぐ）を作りますから、三日後に取りに来てください」

そんなことで、ぼくは懐爺に指示された通りに、やりました。

刻苦呻吟（こっくしんぎん）、苦心惨憺（くしんさんたん）しましたが、何とかやりとげました。

その詳細を述べると、百時間はかかるでしょうから、ここでは記しません。

奇跡的（きせきてき）に少女は元気になりました。

小学校へも来るようになりました。

そうして、ひと夏を過ぎたころには、他のこどもたちと同じく黒褐色の顔になりました。

あの妖精の雰囲気（ふんいき）は皆無（かいむ）になっていて、ぼくは何だか余計なことをしてしまった気がしました。

その少女がいま現在どうしているかですって。

「ぶらぶらしてないで、とっととかせいでおいで」

白髪を振り乱し、威張り腐った顔で（まるでおばけです）ぼくの尻をひっぱたく、ぬかみそ臭いぼくの糟糠之妻（そうこうのつま）が、あの元妖精なのです。

とほほ。